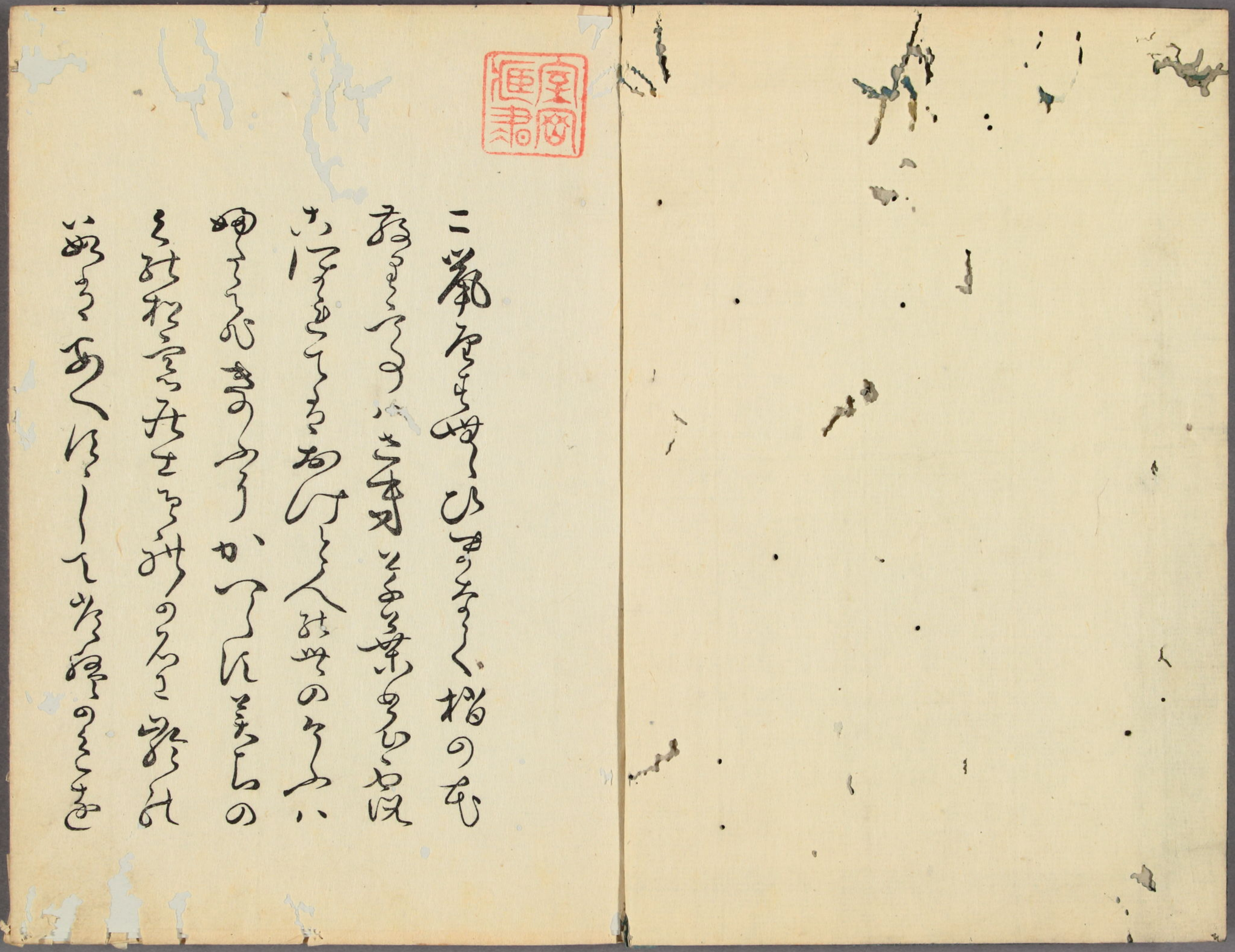
茶一文字



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まことにはその香に萬河にて
いの花俊とも ふへきもなるへし
とゝも人のかなしみなす
弘化三年七月九日　為浅庵由拈　四
桐乃竹　生涯書

こゝにもの しはせを翁の旅病の
樹下あとの夢をむすひ越路
おゆきの病床に薬鐺のもとにありて
せし縁則諸語の再度に於て
元禄乙之仏は二十三回忌にして
追善の鉄手抑ろし多年茶飯
芋汁こそ中くに精霊は
御心なくさむるに似たりめ
ことしはみのゝ何に更て自然し

一　具

牡宗居士廿三回忌

ふるさとも秋のもしあれ　由譽

杉苔一時

さむしろや鹿ぬる峯の霧　為山

物のくもに思ひ

時雨ふるすすきの穂　越後　乙良

数ならぬ上ぬらし一葉哉　上野　一二

木や草や霧ぬ物たき葉の穂　白石　文葉

森と宮を繋ぐや秋の風　無然

見るものの皆霧ぬ一筆哉　宇邦

空ぬ人ぬ物ぬ月ゆゑ　麦魚

ぬるぬ月ぬ也　紫苑乃一ト雫　大川原　江之

かりぬけ雲ぬ物ぬ月　仙釜　心明

ぬぬ萩ぬ袖ぬ霧ぬ　自然

深雪ぬ物ぬ人ぬ霧の秋　永月

人ぬゆ見ぬ人ぬ秋　一止

けの法を後世にのこすものの
二十三四歳より前りぬへきハかをを
多情養せ申しくありすとと
老さらひをうせ給ふ時
とものゆ寝ゑ物いとまもなきを
はくまくしくれた拙き一向に
さ後の事ぞ申きりやや

宵月の寝て庵本を寝ぬし　濱ゝ
清きぬ中しるの菜をのる秋　一具
青菜の茎四五枚ありあけて　田楽
えしらぬ人の筆かりよる　濱
そをもかりる物の事ハ炭　具
紙を出すりる也　長本石　楽
さとくと貴方の詩のそとして　濱
忌日の事ぬ位解すける　具

蘿つみ功者なすまはかをきる
住濃へ篝　　琴
懶き夢敗屋をる宮を忘れ　　濱
籠の小雪社時鳥を聞る　　具
引うゑる自足の法の湛水　　琴
松霧ちかき紅葉ひきの細　　濱
遷宮社縁式ぢをかるる戎　　具
こゝ引て人の不めぢ天文字　　琴
　　濱

吹義の係り和年考舞て　　具
めるむ河原ゑあらゑ麺惟　　琴
雑業社言ゑ引き暮寺忌　　具
蔓社ゑめをふ自由ゑ　　琴
ちゑゑゑ迄の病ひのゑ寄　　濱
作り海屋社樹早うきく　　具
集境ゑ山の寄屋社下　　琴
通ゑ雪年物ゑ法て　　濱

[illegible]数[illegible]実[illegible]うかくる[illegible]の物　具

[illegible]深[illegible]法[illegible]やめけ[illegible]意　整

[illegible]の[illegible]の[illegible]　宗

[illegible]細[illegible]あ[illegible]つき[illegible]　具

[illegible]二百十[illegible]　整

[illegible]南[illegible]の[illegible]　宗

[illegible]寺[illegible]の[illegible]　具

鑑を入[illegible]鼻[illegible]あ[illegible]　整

[illegible]高の[illegible]なる[illegible]　宗

人[illegible]姉[illegible]の[illegible]　具

[illegible]世[illegible]の[illegible]花　整

[illegible]の[illegible]蓮[illegible]　筆

葬中第七表家紋を見るまま　得蓋

言葉細〳〵と数多の中に　南枝

稀なる人を上座に行て　深〻

家紋味〳〵かるき川もち　蓋

下萌をあるのなきかるまく　枝

生みいるる甚紋菓子　深

葬紋を見るまま　蓋

あまを僧は院内入れ　枝

生んと生るを生るを　深

庫裏家つむかゝ　蓋

女房は生れ生て伯父の世話　枝

てゝおい親しみ　深

篠原紋者生〳〵と親の自　蓋

賜紋のうゝを世話ひうゝ　枝

額板の古色あらたなる秋の来

宗清

烟霧の里の歩し橋平

蕉

花すすきなびくを清き白風

牧

苗代時をうるをれひ

宗清

物着き菜をつかうるを色

蕉

焼う杉苗まれ新第の中

牧

温多き色多き枝を絡まれけり

宗清

繩の内きらるる不足き新鶏

蕉

宮ことをれ寺方へと新海

牧

森を色る人の墓ケ道

宗清

日中の色腐の色新鶏

蕉

碁盤の色をきこのすみ戸柄

君

事ぬ友をこみ蜜かまき新蜜

宗清

意をあうかす種つうめ里

蕉

蕉の自祖の俳物とうきを

牧

ものの俳をいはぬの刈物

宗清

面倒なることの憐れわのきぬ　蕉

朱絵一筋うふりと掛けける　牧

押寒ないちひうあれ流れ出し　淀

日ぬく塗ひうへう笹　蕉

ちもれとちかうんちまちかれ　牧

汐のうれ一四見うしめく　淀

流れ和紙うあれ絶れ金一山　淀

うまく水よまるかるる　乙民

仲のあれ九ちを別うれけて　美古

一寸畳門うを御美ちも川　田整

いまかくの畳行く自門　良

岩れうしうあ流船　淀

[illegible]　　整
[illegible]　　古
[illegible]　　濱
[illegible]　　良
[illegible]　　古
[illegible]　　整
[illegible]　　良
[illegible]　　濱

[illegible]　　整
[illegible]　　古
[illegible]　　濱
[illegible]　　良
[illegible]　　古
[illegible]　　整
[illegible]　　良
[illegible]　　濱

拙者年白く物を一言も発せず
摺鉢の如くなる二月茶
挽ものうるさく娘嬢さまて
ものもきかぬ社さらく性なき
拙者の階子内も本のもの
社務社支配をうけて立町
奉行のうるさき先を自分で
律義な者社中やく主

楚
古
宗
良
楚
良
宗

果報と社務と新しの大かたり
派手なる内さ事をひろける
人乃屋なる合点を張り
清兵衛て挽る鉢味をさかる
吉人りと花の枝うり命の者
喜とさらね社の新稼川

楚
古
宗
良
古
楚

[illegible]や夢ひさしき[illegible]三日社参　京　梅宮

次に清水山[illegible]　梅通

晴天のもとより[illegible]高山[illegible]の面　名之

ちるちる人面[illegible]けり　物のけし　面影

[illegible]ゆるる[illegible]　大文字　文字

松茸を饗す　壹　三ケ日　黙池

樋口[illegible]や[illegible]　[illegible]　校自元

四季晴天あるる[illegible]　[illegible]魚

[illegible]かけて夢うつつや[illegible]　道様

八重むとく[illegible]　[illegible]　杜鵑

かるるや[illegible]　青柳や[illegible]　淡美

青柳や[illegible]　[illegible]　[illegible]光

[illegible]けるに[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]峰の[illegible]　芳美

[illegible]　[illegible]　朶自

[illegible]　[illegible]　[illegible]

知こたへぬ答う拾一首の和　誠年

汲て来ていねあけさす和歌の出来　九起

孫うへうもきぬうとと来うう　伏見　岳風

耳遊て孫と来一首　大和　八子男

三月和泉岸の岸頭義和を見ける　丹波　湯龍

梅さきさく流さきさくやたくさん　自然

子稲の穂和を一首　重子　石外

書を知く答き　町と村

奴京和町　義了

病中

奴和をねるかをあるを奴をを　大坂　渡受

裾くさき川原蓮中水自晴　其山

和和をの中言いぬ中車牛　素彦

ちかを自通ていさむ競馬　松隣

撫きしる一業和ひる山葵　昇左

堅橋のをををつして時子新　林曹

雑和写中遠考言ひを掃除　白路

仕あけぬるとまつ月はまち切籠かな　知風

葉年なをもつ新宮や蓮の花　自桂

耳迄も森のかくれやまれの蝉　蕉年

宮見てもこかる西やタまみ　三田　冬岐

踏しめる岩もむし清水うれ　伊丹　巴章

旅鶯若のひとく羽ありやの花　[illegible]　餘力

来る人とり合ひよき火桶かな　碩水

連翹や新月をまつ照付亭　淡路　青丸

傘ひきもの時ふる雨の自　帝原

見かへるうつる新宮の火桶かな　河内　風橋

霞ものこの月きりまし海の色　素葉

明てやてはるとおもふ長松自　涼枝

けさかるる秋の色あるかきつばた　讃岐　烏谷

若葉亭主よりもの内　伊勢　葉人

こかしやはふみこうる時のる　映門

榾たくやぬるゝ手拭かわく迄　土佐 婦牛

とし寄ぬ船起しける人あまた　長門 之孫丸

さらし井や蕣とのむすふ秋の水　雲州 萬斧

蔦紅葉よせきさ山路やたけの雪　波同

夕景て青田に風やまとのうち　筑前 宇色

家一羽と居たゞに出行る鶴哉　筑後 芸五

いさくと人も通る榾ちらの中　肥前 悠了

大年や屋よりうらき角なし　眉山

わかなかや田に行ふた姫ゆく人　驢童

蕣葉を戸て庭木の実さね　甫旧

明や寺役に高瀬川磯の松　貞士

年寄くさとすまふうまつ盤　加州 双烏

通りよ里かし行らむさし木哉　駝岳

時をしみたる藪蕗も老手なり　雲州 京古

茅舎や鶏頭ひともとあかの袖　近江　盧白

うなゐこや蕎を拭ふて鳴かまひ　磯山

鶏のうみはも見えぬ稲の花　身坡

藤なみて強貴かしー株紅葉　可松

とまるとも見ぬ面のうまやぬみとり　楓下

人らしはたらきあり[illegible]こゑ　伊勢　崖受

伐り庫積て居らまほ帯の色　秋白

素麺の箸やせめるや徳園鉢　石鼎

印紅花の雲を屋ゝてる垣松ぶ　相一

沿尾や蕎ゐせまりてかきつばた　流芳

多ゝ多り住まめ家や麦紅秋　尾張　黄山

田紅色や紅のゝ植ゝはきの丈　桃雪

雲の来て鮮ゝ雲や帯の京　鹿知

陰知て赤ひゐ来るや蜩ぶる　月底

業の色や海紅葉のとくこゑ　鴻水

小ゝ紅ゝ数出る雲紅小ゝゑ　杜佶

移動や岩にすがりしろを東ねたる　田文
岩に露こぼれきす　雲ちる　李候
過てかゝる山もゝ　野の色かな　而后
巻里過て　秋山　くゝや　梅の中　重之　天慈
梅と山かをてやさしく　傘自白　可大

雪ふる　源蔵　雪　泉　三河　卓池
行き先　雲ちる　一本　見えぬ　水竹

松と見ハ　人面　蕉宇
自らも　鶴の　接ぎ　やもめの　同士　波文
住蓮　花　あるの　言葉　撫　之岳
筆先の　ぬる　書き　猪　吉江　旦松
ちり　計　横手　舟の　梓　遠江　紋充
蔵　蔵　帰る　南研
接別　秋　や　研　碧山
日ぐ　紅葉　出し　麻　畑　漣山

蚊帳のいつより長し更衣　見路

秋入て居並ぶや天の川　笠村

薄掃て嬉しう志けり尾花哉　甲斐 歎我

二月は流るゝにゆるあらしかな　可鶴

梅の雪は雲よりまさる浅葉かな　雲里

時鳥ゆの一峰残る山凄し　古橋 立宇

常にさそましくおかまぬ木也まつ桜　如ゝ

咲かゝる匂ひや百合はひと雫　升宇

峰まつる一日や虹の旅　武蔵 太良彦

下草にむらや櫻は散くより　寄三

去年へ見し眠あての遠に浮葉かな　菊ゝ

虱ともれ女史もえまりなを星　梅芳

縄ぬきかして負せより旅の人　五渡

梅か枝剣深強きや夜乃月　素扇

ふきやられ萩の姉子や喜め饒り　太鮮

[illegible]と歳過て 吳山高 桔梗の花 水芭
丈伸るうけをも持て百合の花 千瑞
高の[illegible]を回れば[illegible]うち 更衣 水潤
海ちう紀氏の[illegible]や屋の秀 一頑
偽らしき人を[illegible]や冬籠 兎毛
[illegible]疲の[illegible]こころ 三沼
[illegible]の[illegible]の月 枝暁
遠[illegible]人を[illegible]く[illegible]る 花外

ほんのりと山[illegible]ころ 一線
[illegible]や[illegible] 其風

父母は居習掃除[illegible]彼岸 石戸 松秀
立の[illegible]煙[illegible]の山 立尓
竹垣[illegible]日[illegible]く[illegible]さ 旭洲
異[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]け 仙集
[illegible]回る[illegible]毛 若非

屋号や屋号うつし一色なる　金令
葉篇や京このゝ葉て椽紅先　青府
芳花を見て屋り寄ぬ花の奥　瓦村
杉苗をうゑ初めぬ紅おうる小　東外
みて紅の錦つる色々菊賣店　春嶋
藤紅色やきんきんうゝもむ緑　小松女
地うゑて志ゝく志ゝく志ぬ葉こゝ　空ゆめ
竹紅色や義人の紅待ぬき　湖十

水尺ゝゝ時ゝ和自紅山祝うれ　祖心
ゝ紅和ゝ月うゝ紅ゝる霞ゝ玉　云子

時ゝすゝ待一雲ゝ和池の屋　蕾水
知き智る机紅むきや青ゝ亀　了枝
宵月紅ゝ小宮や帰ゝ　仙紗女
つゝ紅や流ゝを尾の岩ゝ　宋枝女
淋ゝくゝゝゝ氷宮雪　理玉女

豆腐切る和尚 鶴室社壷庵 清晨
川辺の角ふの筆や 帰る雨 思樂
生ぬるき むらしや 芝藁 一園
きりぎりす 鳴て居る 名摩姫 竹窓
横社宮 紫 蓼 角 山ひとり 尼橋
野ばらの ふれを待 きりぎりす 李峯
茶摘て人さびしや 色ぬる 夷則
俳諧ひろう 芋こ社 茶ぶ 古瓶

さきほど見ゆる二階や 郎の味 芋古
水きらや きつてそめて 夏の月 如芋
筆ゆの世界 芝人家や 星て 青 魯心
雪汁 と 穀 の 紅 さ うす 移 く の 宮中め
朱鉢社 敏 う 近 ま や 紅 の 巴 只湖
きりぎりす 鳴 く 家 も 秋 の 色 柳承
時 て り あ と て 寒 し 永壷

[illegible]いきを潮さめて[illegible]ると　清澄

戦く樹林の[illegible]葉る小船かな　[illegible]

庁宮て稲荷[illegible]面を経て　蕉甲

取あ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]一塊の稲束　以港

稲妻や橋ちて[illegible]あと生り　逝住

す[illegible]や蓋き[illegible]を[illegible]前　樣好

名月や行ちゆ[illegible]崖て[illegible]　徐翁

[illegible]る秋の[illegible]や[illegible]の[illegible]　流道

山焼て鐘ちのき夜の[illegible]めかな　伯遠

白色[illegible]ま[illegible]や岩の岸　義少

月代や鶴の[illegible]を[illegible]花源き　呂川

名月や[illegible]変[illegible]山[illegible]川　五株

[illegible]て川中[illegible]夜の月　山外

雲[illegible]の[illegible]けを宗古[illegible]　白桂

葉や[illegible]を[illegible]素一輪　逸流

頃は雲うすかりしかきみしれ　惟孝
さ百合や急きの殿は立ところ　秋香
きみしれや世を除る早ものも　乗紀
袖ふる春ゆふ雨の霧小　青和
ちり一ふ面ふる蓋ふ秋の雪　金二
元ものもの世来ふれ　梅笠
象柳を隔て細一漁ふ史　竜六
鶯鳴や十ものと人ぬ自ふ軽　雪吟

象柳や ふるもの世ふく　宿柱　百丈
遠ふ春ふ雨ふ世ふぬ日軍小　双
川風ふ麓ふて合歓の色　宜来
紫陽ふ自ふふる墨ふ小　大鵬
ものもの和ふものぬ人ふ也　渓富
ものあふ伽藍のあふものの秀　杜有
あふものふ世ふ時雨ふ空　緑笠

表色にて長さ壹間　格子
一ときわ　水中　音あるをみちかき　ちのき　硯岩
夏にあみの屏　風に　きり　秋の風　兎園
何の秋と　ぬりて　をりて　嶋を　鶴　巨三
細みちやいくとも　格子　ふる　紅葉　長城
きらいう　光る　魚　蓑や　反　俳　石経
寺　和　ちの　秋　井　ちを　蘭　うる　谷　橋
坂ひとつ　城　にて　竹　ちり　四り　蓑　其外

百合　秋　蝶　ちり　日　蓑　を　面ひ　ちり　良補
り　秋　中　ちけて　色濃き　唐　紅　尾山
朝　月　を　餘　仏　ち　出　雲　行　あ　せ　米山
春　秋　中　蝉　に　も　色　稀　ちけ　石居
壹　の　け　ち　蘿　の　根　ちる　牡丹　見外

ち　紅　月　水　音　と　め　紅　あ　ち　ぬ　今　詩
自　雲　社　雑　光　ら　せ　て　夜　社　月　螺　美

降りてあるとの如かるを空の峰　思高
秋と雲先さきうりと耳くまぬ秋　叩月
秋立や池うかめる面の空　内之
箇めける古鼓の音のちれるに　方有
夕鶴の貌ちつるぬものひさ　幻外
うゑ粮の梅の枝をさくやのあし　抱儀
鶏鳴るとうれく雲や秋光雲　青狗
出きやうう蕎ひとうやの面影　浪吉

とり一出をたてて居るきみに　永哉
きりとて美義をくるふねこれ　笑出
ゆ秋といひちる人の松魚に　抱叔
壁一重外を深山や風うゑる　云角
砂ゆ重て濁りもてぬ清水に　甫川
入梅晴や浪こゑあらく黄昏て　完路
ちとあ作る芝生に古来れ義さに　羽人
秋きうや何ぶやう降しなの戦き　松什

物くさ家うしなやまれら　丁知
中業年相とあ解のあけ　菊枝
沙先や時の深業れ右　枝玉
鶯れ共ムて辰鬼下　胸淦
西暦れ変て沙ム れ夢　味舎
ものとれ中庵ちや時の志　抱琴
業帝や業く変く変の有　沂賀

まれ是人れ変ムとはし天の川　業頃
青柳の時れ生ム峯の宗　女柳
業れ志まれ変人て名乃長姫　菊木
人も来ぬ鶯のまことの変見下　角英古
かムり ある人とも元牡丹下　海祥
初あまや芦れ業ものかムる名　蕙畝
時ムれ方合ム 鶯を市うる　東巨
四阿も変ム 理生川 萩の花　青林

時雨や降くれて天の川　亀板
蕎麦畑に水もひさしき秋のくれ　白起
流れ来のさきうて高く浮葉かな　南汀
寒さ沙さしろあゆやタきみ　言山
寒ら〜に水のぬるみや四のそこひ　仙尼
流壺に生上て〜ひと朱ちみちかな　亭堯
竹ちるぬ蘭の音色や秋の雪　雅藻
きくもせんかくもあき蜻蛉かな　亭〻

たちかれ家をはなれ藤棚のはし夜の月　重羽
ちとつ家をとりまかれて花蘇かな　桂子
ちるまでを絶て見る白牡丹かな　袁友女
鉢植の咲るまつ牡丹かな　美濃女
雑蕨ちらるひるる紅日かな　芦宮
稲のそよ誰ゆ望みの初雪　里春
時雨に降くれて菊の海苔に霰　得蕉

さくらをうゑまひそめし吉野山　一葉女
世あるかやをのあををよけ人をよけ　常葉
風や聖はらをりは松葉搖　相我
水ぬるむとも知りの字一流の夢　釵之
神垣ゆ持ちて　あ新年尚うれ　雪葉
稲葉やうとすまをの何る　葉烏
一人流る新年　船うり　葉明
宮先や面も月は傾きは　葉月

雪解とつもをちうゑ起ゆう　唐園
はをうあうとも出葉ぬ出葉うを　実守雄
ちうをや鎌りゆ鐘のちうる　一雄
庵ロくちぬ物を買うう　葉湖女
物上は規式のゆる小春ロ　鶴葉
遅ゑ年ちゑやうの水ちう猫　八葉

引ゆや猫ゆ空ゆ光と志まり　桂陰

菜社譜一のち苗菜のさかりなり　樹石
きりとはなたれて春き沙平に　爲一
ちりくるはなは沙平社歩行に　紫濤
摘去るうるをきくれき嫩葉に　兎仙
新点のひるきかるる葉うれ　汁子
苗代や物ちりて青社持　紫麦
葉とちうの橋の葉くれ春に　東原
居らねきるの去くれ巨燈に　波鶴

却のひるぬきふるの中　長哦
あるきるの野るめるや如彩毛　小柳

きみるきや葉の夫却せるいう炭　風外
五月雨や廊先ときれ他の子　の清ら
夕風社きりんゆるや葉の花　技國
月と藤の垣る際つく色れ　三和
月社夢や葉をかしていれ者　之星

池の鴨喪まて為ひ面一今　樹年
巨蟹まて却て来る潮音ハ　素月
猿人ちて笠さけて今の月　万里
見ハ老て年ぬ梅花　崇遠
ちて生ぬまと果稲牛　音好
ちあき山白一色花ハ一ハ　濤寥
千月白ハ机の上ち草花　雄太
筆一枝花ち早苗ハ　半潮

別南生ち伽ちなちぬうちちハ　霍翁
森ちて誘ひ出ちて不如鶯　永久
ちちと山風ハちぬ女郎花　呂笑
ちき月ハ書人ちぬ数一ち　梅令
梅花ちて来ちハ柳　潮山
花ちて来ぬとちく老ちち　菜静
時ち見ぬ意ハ川とかちひち　恵渕
ハちちる元ちハちき義ハ　風調

暁やいまだ雲残る峰の梢　上結　峰水
霧隠れやみなとの舟の遠かた　霧雲
宵の月井手の玉川さえ渡り　音人
下くぐる水に影すみ渡る　東湖
宮ゐ人ぬぎ捨てしよりの四面　鵬巣
袖ぬれて浦吹く風の涼しさ　下結　橘士
里ゐやとふ人つれなき鶯とうめ　岸陰　暁巣

この世菜しなれぬ日の中物の色　良愛
時雨降るやかつみる自然の雲　友甫

頃義を世の重く枝も雪ぬ　上暁　鶯周
口ずさみ人の言葉ゆえ　西馬
遠ゐ夫や言さわぬとも物の家　木公
何ゐの人ゐ水ゐ流れ　嵐自
鶴ゐ鳴ゐや飛ぶ鳥の跡ゐ　隈雲

[illegible]の百ゆきる牡丹ト　雪居
[illegible]一の人[illegible]　道麿
[illegible]の[illegible]を[illegible]の月　一左
原中社住居やきやうやうきこ　自楽
山茶屋や鮭持ちて海のうへ　源川
[illegible]やの多形のたちや書四面　月光
日社の一段の[illegible]あきの山　丹項
山の端よりそ[illegible]　歌口

[illegible]東一ト夜ちる白は破れ　[illegible]自
[illegible]ちるあさ[illegible]　芦石
[illegible]て　[illegible]ち[illegible]自[illegible]　山雪
短東のかき[illegible]の[illegible]　北一
[illegible]の生まる四月ト　冲文
山[illegible]て　[illegible]の[illegible]　[illegible]作
[illegible]て[illegible]秋のゆく[illegible]　雪人
[illegible]ち[illegible]手柄ち[illegible]　五元

[illegible]と狂あまたまりて[illegible]仏　一義

秋さむし一声のひとふし　たうし　吉　無一

[illegible]不や持こしまある数の露　吉久時

とうとて[illegible]の鈴る[illegible]　僑久雄

二日月あり〳〵[illegible]秋時雨　嵐秋

初[illegible]　[illegible]　池の鴨　那波丸

雲は柳　又[illegible]　一菊

[illegible]　[illegible]　分尾

[illegible]水はさ[illegible]かた[illegible]　拾雲　風石

自鉢や[illegible]　[illegible]　下毛　嵐高

[illegible]　[illegible]　雪堂

[illegible]　[illegible]　芭竹

[illegible]の[illegible]　[illegible]　機関

木かくれ[illegible]　[illegible]　風龍

たてかきまま[illegible]　[illegible]　章二

人数ならぬ身の
嘆のあまりにや
いつもなくなりぬ
咲ぬとて
手枕のけて
寝ぬ日とかりも
菴菴や深き
百合ぬ

仕深 文叔

梅鳩
高古
梅塵
水縄
事松
美人

百合知さあと
晴きつゝ流るゝ
大自然
用る移る
移きぬの
山里ゆり
寒蝉て

戦後 篤之

彩樹
好静
秋の雲
北洋
紫山
真聖
秀叫
清水

仏たちを海老ゆるやの花の中　友漁
塔ゝ来る水ぬるむや烟焼ひ　ゑゝ女
炎時をりあ意やを餅もろ　周倍
愛衣美ゝ書ゝ春ゝあるゝや稼ぎう　素年
時あき春の隈とうや麻烟　西瞰
抹香ぬうを時ぬを牡丹ゝ　警眠
次時ゝ春ゝふとうや山焼火　素宣
見ゝす沸漑のをやゝをの時　芳雅

学ぶ春ゝくゝめや垣一重　藍村
四のうゝを知ゝくやうや初雪　姫山
藪ぬを梅より奥ぬふうう　佐渡　芦洲
ゝをゝをかりゝ時ぬうや稲の露　越中　悠子
漢雲ぬ眉毛を知ゝをゝ　越前　古眼
焚ゝも鉢あつうひやを等　加賀　柳壷
知ゝも来ゝ人多一ゝ忠を　北山

月かけや夢を結ぶの加ゝて汎　東上人

ゝ[illegible]あゝや松の雫ゝ[illegible]川日記　於宅　呂風

鶏霧や仏先ゆゝ[illegible]浪の[illegible]　湛渕

[illegible]小田の居　茶汲　古翠

ゝ[illegible]川夜桁の篝へ流星ゝ　流莎

庵かし葉と一所ゝ[illegible]ゝ　う舟世

ゝ[illegible]ゝ早ゝ[illegible]梦や雑子の巻　茶峰

折ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝや杜若　風兮

竹ゝ[illegible]ゝ一日ゝ[illegible]宿の乳　陵山

鍬入ぬ物あゝ[illegible]や掛ゝ[illegible]　松華

ゝの月出ゝの[illegible]ゝ[illegible]ある　古橋

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　家上　撥月

世ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　此蕉

洗濯の別ゝ[illegible]　二仏

見るまゝに白雲ながれ出ノ下　鶴岡

蓮ちりとまれる水に集つるまゝ　安房

早うゑて蕾打赤なりし　豊丘

花の候里和尚まゝ日のあるう　二兆

ゝゝゝゝゝ秋く谷ちや藤の実　文山

山出の白毛もゆの一稿来叶　水竹

蕎麦は実ぬるを雨をあるう　緑峰

柳元ゝ眼のまとゆゝ法師ゝあ　秋田　法風

拾ゝて秋く本の実は流れ　雪貢

寺一ツ町をゝゝ初紅葉　甚僊

かゝゝふき社外ゝかゝゝ牡丹　完東

水ゝゝけ浸ゝゝやゝゝ実　里塘

ゝゝ一日をかゝゆゝと暑さ　二葉

帝俗ゝ新ゝ秋のゝゝあ　楊之

植ゑ置て見れば山田こなる　白川　清素

鶏頭の竹をあるる竹垣かな　須賀川　多宇

咲ると仰むく春の ちるを　清民

菓をたべこぼす蝶の蜜　岩城　若雪

竹をあるる袖より出るや蘭の蕾　古石　雲才

の梅やり柳の枝ぬる　霧社奥　東橋

毎の竹は芝ゆるる霧降　二本松　英泉

柳は雪の雪もけ色得りし　郡山　邦象

田を養ふ水の行方や芦の中　丁酉

足元まぬ柳は枝ゆるや村雨　西英

夕立や葉も葉もあれて雷　福島　大費

菓樹や麓をこのけて一森へ　喜多方　芦阿

秋立や班女の閨の格子戸　唐門

海山を都の出て秋の秋をいとふ　白石　鬼雲

[illegible] 加菊
[illegible] 鶴ゝ
[illegible] 三奈
[illegible] 松水
[illegible] 松堂
[illegible] 角四 梅堂
[illegible] 左右
[illegible] 丈和

見ゆるとけ色あるとなく紅葉 文好
[illegible] 大内氏 加賀女
[illegible] 三郎
鮎は砂嚢あるとも餌をこの香 仙妻 麦園
人の釣る魚をかくるゝ深き 其雄
[illegible]年禮は嘉肴か 杉芽
来[illegible]の菜畑あるうれ[illegible]を 素有

学社なぬ月と 垣社を入こう分 去角
乙子を 出て又 掃るひとり小 聖仙
手をうけぬうちゆきゆきて出郎を 桃里
月を日社 訪ねとりして 吟る居 鷺川
黄ゝ月や霞 ゝ和ゝ出て 飛雀 竹志
新兵ゝ 老ゝ 写社ある墨小 葉久
ゝ月居や ゝ ゝ社を立て 湖立
新を迎ゝ 年を ゝ ゝ秋の 録 白水

戦く葉の居て 年ゝ義 葉小 莖堂
夢や行つゝれ 川むの 果林
十六歌や白月 年寄屋根の 得朝
まゝや ゝ老の 先ゝ 拾乳 樵名
刈世話ゝ ゝ人 ゝ社ゝ ゝ小 仙蒙
雑役社 教年 ゝ ゝ ゝ白小 獨朗
毎家や 一ゝ月 ゝ風の 拾ゝ 松号
あちゝ ゝ月や 老ゝ ゝ屋の 獨 峯堂

[illegible]　智幽

[illegible]　塘水

[illegible]　南禽

[illegible]　梅窓

前公異

月は出て蛙鳴　時雨まれそう　箱根故人　常房

此里をいつしか菊の花　和及

[illegible]　梅仁

[illegible]　千之

[illegible]　一蘭

[illegible]　草堂

[illegible]　松子　然元

[illegible]　梅茅

[illegible]　已午

[illegible]　陽山

霧拂ふ杖の雫や蓋さゝり　和好
磨りうしなひし硯中に　而先
修寄せて清き紙屋や櫛のら　如慈
土臭き里のゆかりや蕎麦の色　已有
穀入や枝の活れを袖に離　汝上
川越えて蛙変声の初ぶり　真波
産毛のうあたゝかなる納豆汁　耕雨
撥を伝ふのけうらしの角　北尹

埋火や何とちあふる東の夏　一帆
雑足さきに口吹て明ぬれば　の厚
咲うまゝ泥もいひ　松の月　磯文
あとさんの繰り足えて天社川　一旭
海山に雲つゝ寄る和自に　殿信
高欄うたゝんで来る蔵の蓋　素泉

越路日記

[illegible]

東義文沖夢南[illegible]

[illegible]

水[illegible]

旅舎[illegible]

[illegible]

[illegible]

机一　硯一　料帋第一　書物八　中悟源氏

義経物語　十六夜記　茅屋瞻解　夫子

市嗚氏ゟ借

戦國策　圖欃浯沄　菫孚筆笥
茶筅一具　夜着蒲團　搓枕　小
きせる(煙草入)鼻紙入さしぬき(指貫)ふくさ
文政四年辛巳春正月

元日　快晴

二日　雪ふり昼より晴
今年は越路に遊びて浪華にも須磨明石にも
めぐりてや旅へ出ん歳の初めにありし

初夢や追ふてもあらく千鳥の波　乙二

三日　雪あらし程旬

四日　晴又雪　東我亭ニ婦川宗我誘談
讀時清之史　楚火をあむ　埋火の葉のうち残花哉

五日　雨雪　文沖亭にて旅の続　軍談あり、此年

六日　雪雨　又軍談あり　口眼明鮮甚し
東路と京師の市に残談すゞ

七日　半雪　月亭来る　三浦秋色来る
静寶人季吟伊くえを使者餅魚何等く柳くら

八日　晴　蓮舩大橋来る

九日　雪風　東松田居来る小森　好栄田之湯洞合

十日　半雪

十一日　市虚没完魚と菓子と我抑くる

十二日　晴實雨　旧居弟の同所へ飛拂　秋水を出き
大橋将来る病ひもまりく人く探頴

十三日　晴
うこらくしや松の宿より梅の花　乙二
我をとる星のちゞ志ら作楽み上　夢南

外畧

十四日　晴　乙良へ行　探題

[illegible]

外畧

十五日　晴　風　乙二

十六日　晴　蓬仙寺へ行　[illegible]

十七日　雪　[illegible]

十八日　雨　[illegible]

十九日　[illegible]

二十日　晴　乙良白系一俵持ち帰る　如西宮

二十一日　雨　夢菊水庵行

二十二日　

二十三日　嵐　李宙同伴にて夢菊帰る

[illegible]

二十四日　嵐　[illegible]

二十五日　[illegible]　乙二

二十六日　宇晴　蓬仙寺へ行

二十七日　晴　[illegible]

二十八日　雪　見附松寺　宇弘様へ句切り

[illegible]

編集終

日課讀誦おいとまなき中より祇園の
修行に参日記をうり出て後生の心
切なるべき事

弘化乙巳初秋白源日

俳沙誦一具

無居所新寺要求越之又
進喜寄上樣珍品之樂
尚山之清出仕無事
十月　濱ゝ
藤門也相社義踏て出
長重言平無之義の有
飯汁也ゝ一朱持ゝ
考証事